

家庭学習の手引き

見能林小学校

小学校の学習は、社会人として将来自立するための基礎となるものです。特に「読むこと」「書くこと」「計算すること」などは、欠かすことのできない「生きるための力」です。
 学校では、一斉指導だけでなく個別指導やTT（ティームティーチング）など、「個に応じた指導」の取り組みなどを通して、基礎学力を高めるための努力をしていますが、ご家庭と協力することにより、さらにその力が何倍にも高められます。
 よりよい家庭学習の習慣化に向けて、この手引きをよく目にする場所に貼っていただき、お子様の学力向上にお役立てください。



1 家庭での学習を習慣化しよう

☆学習時間のめやす

- 1・2年—20分以上
- 3・4年—40分以上
- 5・6年—60分以上

*学力アップは規則正しい生活から

- 早寝、早起き
- 朝食は必ずとる
- 朝の排便
- 時間割や学習用具は自分でそろえる
- テレビやゲーム、インターネットは1日、2時間以内

※学習の大切なポイント

- ・勉強する時はテレビを消す
- ・よい姿勢で学習する
- ・机の上をきれいに片づける



2 家庭学習の参考例（各学年共通）

国語：漢字練習、意味調べ、書き取り、読書、音読・視写、日記など。

算数：計算練習、百ます計算、文章問題、テストで間違えた問題をもつ一度解いてみる。

社会：理科・生活科など勉強したところに関係があることから本や辞典などで調べてまとめる。

*読書や市販のドリル、問題集などに進んで取り組みましょう。ICTをうまく活用することもいいですね。

3 各学年で身につけたい力

習慣を身につける1年生

- ①ひらがな、かたかなの清音が読めて書ける。
- ②助詞（は・を・が・も…など）を適切に使い分けて文章が書ける。
- ③80字の担当漢字のすべてが読め、8割程度の漢字が書ける。
- ④鉛筆を正しく持って字が書ける。
- ⑤たし算・ひき算ができる。

習慣が定着し始める2年生

- ①160字の担当漢字のすべてが読め、8割程度の漢字が書ける。
- ②教科書がすらすら読める。
- ③順序よく話をするができる。
- ④九九がすらすら言える。
- ⑤たし算とひき算の筆算ができる。
- ⑥決められた長さの直線を正しく引ける。

習慣が身につく3年生

- ①200字の担当漢字のすべてが読め、8割程度の漢字が書ける。
- ②国語辞典を使って言葉を調べられる。
- ③筋道を立ててわかりやすく話したり、書いたりすることができる。
- ④かんたんなわり算ができる。
- ⑤かけ算の筆算ができる。
- ⑥重さをはかり、表すことができる。
- ⑦ローマ字の読み書きができる。

進んで学習する4年生

- ①200字の担当漢字のすべてが読め、8割程度の漢字が書ける。
- ②国語辞典や漢和辞典を正しく使える。
- ③わり算の筆算ができる。
- ④文章題の意味が分かり式をたてることができる。
- ⑤コンパスを使って簡単な図形がかけられる。
- ⑥地名を調べられ、47都道府県名を覚えられる。
- ⑦予想をたてて実験し、その結果から考察することができる。

学力向上へ
つなげる
家庭学習の
習慣化

自主性が育つ5年生

- ①185字の担当漢字のすべてが読め、8割程度の漢字が書ける。
- ②習った漢字を使った熟語の8割程度が書ける。
- ③小数のかけ算わり算ができる。
- ④分母が違う分数のたし算・ひき算ができる。
- ⑤割合、百分率を使った問題が解ける。
- ⑥世界の主な国々の位置を正しく示すことができる。
- ⑦家庭科で学習したことを実践することができる。

生活の中で心がけたいこと

- 読書は学力を支える基礎といわれます。進んで本を読もう。
- 辞典や図鑑類を身近に置いて調べよう。
- 日本地図や世界地図を身近なところに置いて調べよう。
- ニュース番組を親子で見て話し合おう。
- 新聞を見る（読む）習慣をつけよう。
- いろいろな本を読み、書いてあることを読みとろう。
- 自然や生き物とふれあい、くわしく観察してみよう。
- できるだけ外遊びや運動をして、体力を高めよう。
- 家の手伝いを進んでやろう。
- 「早寝、早起き、朝ごはん」など規則正しい生活をしよう。